

# 参考資料

参考-1 用語集

参考-2 代表種一覧

参考-3 チェックリスト

参考-4 とくしまビオトープ・プラン検討委員会 委員名簿

## 参考-1 用語集

### あ行

---

#### 移入種

国外又は国内の他地域から野生生物が本来有する移動能力を超えて、人為によって意図的・非意図的に移入された種。

#### エコトーン

2つの異なった環境が接し、移りゆく場所に形成されるどちらとも異なった特徴を持つ部分のこと。日本語では「推移帯」や「移行帯」などと訳される。

#### エコミュージアム

1960年代後半にフランスで提唱された新しい博物館の考え方で、「地域の自然環境、社会環境や、地域住民の生活の発達過程を歴史的に探求し、自然遺産および文化遺産を現地において保存し、展示することを通して当該地域社会の発展に寄与すること」を目的とする博物館とされている。

### か行

---

#### 回避、低減、代償

ミティゲーションの基本的な種類。回避→低減→代償の順で検討することが必要とされる。

回避：開発を中止したり、別の場所で行うことにより、自然への悪影響を避ける。

低減：開発面積を縮小するなどして、自然への悪影響をできる限り少なくする。

代償：開発によって失われる自然の代わりに別の場所で自然を守る。または、新たに自然を創出して悪影響の埋め合わせをする。

#### 空石積み

石垣などをつくる際に、モルタルなどを使わず、石だけを積んでつくる方法。大小の隙間が生物の生息・生育空間となる。これに対し、モルタルなどで石と石の隙間を埋める「練り石積み」がある。

#### 環境教育

自然と人間活動の関わりについて理解を深め、責任のある行動がとれるよう国民の学習を推進すること。

#### 乾田

排水がよく、灌漑（かんがい）をやめると乾く田。これに対し、一年中湿っている田を湿田という。

#### 汽水

海水と淡水とが混じり合っている塩分濃度の低い水。

## 郷土種

その地域に本来生息・生育している動植物種。

## 極相

群落遷移の最終段階。その地域の気候条件に最も適応し、長期にわたって安定した状態に達した段階。

## グラウンドワーク

1980年代にイギリスの農村地域で始まった、パートナーシップによる、地域での実践的な環境改善活動。地域を構成する住民、行政、企業の3者が協力して専門組織を作り、身近な環境を見直し、自らが汗を流して地域の環境を改善していくもの。

## グリーンツーリズム

緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

## 溪畔林

河川上流部、溪流沿いに成立している樹林。

## 県、市町村、県民、民間団体、事業者

本プランにおける、ビオトープの保全、復元、創出における取り組み主体の区分。場合により、県、市町村を併せて行政と表記する場合がある。また、県民に民間団体を含む場合がある。

## 県民協働

魅力ある地域づくりを進めるために、一つの目標に向かって、県民と行政とが役割分担し、また相互がパートナーとして「心を一つにし、ともに考え知恵を出し、ともに行動する」取り組み。

## 高次消費者

タカやフクロウ、キツネなど、自然界の「食う食われる」の関係の頂点に立っている種。

## 洪水による攪乱

洪水を受ける河川敷や氾濫原で、土や砂礫の移動、流水などにより環境がかき乱されること。河川敷や氾濫原にはこうした環境に適応した生物が生息・生育してきたが、攪乱の減少等により、生息・生育空間が減少している。

## 混交林

2種以上の樹種から構成されている樹林。これに対し、単一樹種により構成される樹林を単純林という。

## さ行

---

### 三面護岸

河川整備などの際に、河川の両側面と底面の3面を護岸する工法。

### 自生

ある地域に本来生育していること。

### 自然植生

人為的影響を受けていない植生。

### 除間伐

間伐は立木密度の管理のために間引くこと。除伐は、間伐以外の目的に行われる伐採で、若い林で目的以外の樹種を取り除くことや枯れ木の除去などが該当する。

### 植生

ある場所に生育している植物の集団。

### 植物相

ある場所に生育している全ての植物種をさす。

### 薪炭林

薪や炭の原料を得るために育成管理してきた林。本県には、アカマツ林やウバメガシ林などがある。

### スリット式ダム

隙間のあいている砂防ダム。常時の土砂はスリットから流れるが、大きな石や多量の土砂が溜まる構造になっている。

### 生態系ピラミッド

無機化合物から有機物を合成する生産者、生産者を直接捕食する第一次消費者、それを捕食する第二次消費者から高次消費者、およびこれらを分解する分解者の関係を示したもの。

### 生態的回廊

生き物の移動する渡り廊下のこと。エコロジカルコリドーともいう。線状につながものと、飛び石状につながものがある。

### 生態的連続性

生物の移動の観点からみた連続性。直接生息・生育空間がつながっていることのほかに、飛び石状につながるなどの状態がある。

## 生物群集

特定の生息場所にすむ植物、動物、微生物などの全ての種の集まりをいう。生態学的に見ても何らかの機能的な単位を形成しているもの。

## 生物多様性

「生物多様性条約」において、「すべての生物の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。」と定義されている。ひとつの種であっても、生息・生育する地域によって、また個体間で形態や遺伝的形質に違いがある。そして大型の哺乳類から微生物まで様々な環境に適応して多様な生物種が生息・生育しており、多様な種と大気・水・土壌等とが相互に関係しながら一体となって、森林、湖沼、干潟など様々な生態系を形成する。こうした遺伝子レベル、種レベル、生態系レベルの生物の多様な有様を総称して生物多様性と呼んでいる。

## 生物多様性国家戦略

「生物多様性条約」第6条により、各国政府は生物多様性の保全と持続可能な利用を目的とした国家戦略を策定することが求められている。日本は条約締結を受け、平成7年10月に生物多様性国家戦略を策定し、平成14年3月には新国家戦略を策定している。新国家戦略では、①種の絶滅、湿地の減少、移入種問題などへの対応としての「保全の強化」、②保全に加えて失われた自然をより積極的に再生、修復していく「自然再生」の提案、③里地里山など多義的な空間における「持続可能な利用」、すなわち地域の生物多様性保全を進めるために、生活・生産上の必要性等と調整する社会的な仕組みや手法についてのアプローチをより積極的に進めること、の3つを大きな柱としている。

## 生物多様性条約

地球上のあらゆる生物の多様さをそれらの生息環境とともに、最大限に保全し、その持続的な利用を実現、さらに生物の持つ遺伝資源から得られる利益の公平な分配を目的とした条約。1992年の地球サミットで採択され、平成14年2月現在の締約国数は、日本を含む182か国。

## 遷移

ある場所の植物群落が長年月の間に次第に別の群落に変わってゆくこと。

## 総合的な学習の時間

新たな学習指導要領（小中学校は2002年より、高等学校は2003年より完全実施）において、

- (1) 地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間。
- (2) 国際理解、情報、環境、福祉・健康など従来の教科をまたがるような課題に関する学習を行える時間。

として新しく設けられる。子どもたちが各教科等の学習で得た個々の知識を結び付け、総合的に働かせることができるようにすることを目指している。

## た行

---

### 択伐

成熟木を数年～数十年ごとに計画的に繰り返し抜き切りすること。

### 多孔質

隙間の多い状態、これらの隙間が、植物の活着、生育や動物の生息に役立つ。

### 多自然型工法

多自然型川づくり（治水上の安全性を確保しながら多様な河川環境の保全、良好な自然環境の保全を図ることを目的とした河川事業）において用いられる工法。多様な河川形状の保全・復元、連続した環境条件確保、生物の生息・生育環境の保全などを基本的な考え方とする。

## な行

---

### 二次林

原生林が破壊されたあとに自然に生じた森林を指すが、広義には、二次林が破壊されたあとに生じた二次林（三次林）も含めて用いられる。

## は行

---

### 氾濫原

洪水により水が河川からあふれ、氾濫する範囲。

### ビオトープ

さまざまな生物（生物群集）の生息・生育空間。生育のために最低限の面積を持ち、周辺空間から明確に区分できるようなまとまりを持った空間。

### ビオトープ管理士

環境N G Oが実施するビオトープの計画、施工管理技術者の認定試験制度で認定された人。

### ビオトープタイプ

主に生物の生息・生育の観点から、徳島県内を区分したもの。本プランで設定した区分。植生や景観、土地利用などを区分の基準としている。

### ビオトープネットワーク

同じタイプや異なるタイプのビオトープがつながり、生物の移動、遺伝子交換を可能とするシステム。

## 非干渉距離

動物が人の姿を認めながらも、逃げたり警戒することなく、採餌や休息を続けることのできる距離。

## 複層林

林冠構造が複数層の樹林。

## 保全、復元、創出

保全：ビオトープをよりよい状態にすること。保護（外部から改変しようとする力をとり除くこと。）、保存（変わらないように現状を維持すること。）と、さらに改善することを含む。

復元：かつて存在したことのあるビオトープをその場所や周辺にとり戻すこと。

創出：その場所に存在したことのないビオトープを新たに作り出すこと。

## 萌芽更新

ナラ類やカシ類は伐採後の根株から多くの枝（萌芽枝）が出てくる。この萌芽枝のうち成長のよい何本かを残して樹林の再生を図る方法。

## ま行

---

### ミティゲーション (p.6 コラム参照)

開発の際に自然への影響を回避したり緩和すること。ミティゲーションの種類は、回避、低減、代償の3つに区分されることが多い。

## 藻場

一般に、水底で大型底生藻類や沈水植物が群落状に生育している場所を言う。藻場を形成する植物の種類により、アマモの生育するアマモ場、ホンダワラ類の生育するガラモ場などに区分される。

## モニタリング

日常的・継続的な点検のこと。

## ら行

---

### 林床

森林の中の地表面。太陽光線が届きにくく暗いので、そこに適応した植物が生育する。

### レッドデータブック

絶滅のおそれのある種のリスト（レッドリスト）を掲載した出版物。我が国では、平成3年に環境庁が「日本の絶滅のおそれのある野生生物（脊椎動物編）」を発行し、以降順次発行・改訂している。徳島県では、平成13年に「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物」を発行している。

## 参考 - 2 代表種一覧

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考		
哺乳類	ウサギコウモリ	希少性 指標性	山地落葉広葉樹林	樹洞性		
	ノウサギ	指標性 普及性	山地低木林/人工林/乾性草地/畑・牧草地			
	ホンドモモンガ	指標性	山地落葉広葉樹林			
	ムササビ	指標性 普及性	山地落葉広葉樹林			
	カヤネズミ	指標性 普及性	湿性草地			
	ヒメネズミ	指標性 普及性	山地低木林/山地落葉広葉樹林/低地低木林/低地常緑広葉樹林			
	アカネズミ	指標性 普及性	山地低木林/山地落葉広葉樹林/低地低木林/低地常緑広葉樹林			
	スミスネズミ	指標性 普及性	山地低木林/低地低木林/乾性草地			
	ヤマネ	希少性	山地落葉広葉樹林			
	ニホンリス	指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/人工林			
	ツキノワグマ	希少性 指標性 上位性	山地落葉広葉樹林			
	イタチ	上位性 普及性	小河川・水路/水田・ハス田			
	テン	上位性 普及性	山地常緑針葉樹林/山地落葉広葉樹林			
	アナグマ	指標性 普及性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林			
	タヌキ	上位性 普及性	低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林/低地低木林			
	キツネ	希少性 指標性 上位性 普及性	山地落葉広葉樹林/山地低木林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林/低地低木林/乾性草地			
	ニホンジカ	指標性 普及性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林			
	ニホンカモシカ	指標性 普及性	亜高山植生/山地常緑針葉樹林/山地落葉広葉樹林/山地低木林			
	鳥類	カンムリカイツブリ	指標性		河川(汽水域)	越冬鳥
		カイツブリ	指標性		河川(下流域)	繁殖鳥・越冬鳥
サンカノゴイ		希少性 指標性 上位性	湿性草地	越冬鳥		
ヨシゴイ		希少性 指標性	湿性草地/水田・ハス田	繁殖鳥		
ミゾゴイ		希少性 指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	繁殖鳥		
ササゴイ		指標性 上位性	河川(中流域)	繁殖鳥		
ダイサギ		上位性	河川(汽水域/下流域/中流域) 小河川・水路/湖・沼・池/干潟/水田・ハス田	繁殖鳥・越冬鳥		
コサギ		上位性	河川(汽水域/下流域/中流域) 小河川・水路/湖・沼・池/干潟/水田・ハス田	繁殖鳥・越冬鳥		
カラシラサギ		希少性	干潟	通過鳥		
クロサギ		指標性	礫浜・岩浜	繁殖鳥・越冬鳥		
アオサギ		上位性	河川(汽水域/下流域/中流域) 小河川・水路/湖・沼・池/干潟/水田・ハス田	繁殖鳥・越冬鳥		
シラサギ類繁殖地		普及性	低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林/竹林	繁殖鳥		
シラサギ類		普及性	河川(汽水域/下流域/中流域) 小河川・水路/湖・沼・池/干潟/水田・ハス田	採餌場(繁殖は樹林地)・越冬鳥		
コウノトリ		希少性 指標性 上位性 普及性	湿性草地/水田・ハス田	潜在的な繁殖・越冬鳥		
コクガン		指標性	礫浜・岩浜	越冬鳥		
マガン		希少性 指標性	湖・沼・池/水田・ハス田	潜在的な越冬鳥		
ヒンクイ		希少性 指標性	湖・沼・池/水田・ハス田	潜在的な越冬鳥		
コハクチョウ		指標性 普及性	湖・沼・池/水田・ハス田	潜在的な越冬鳥(少数が不定期に越冬)		
ツクシガモ		希少性 指標性	干潟	越冬鳥		
オンドリ		希少性 指標性	河川(上流域)	繁殖鳥・越冬鳥		
カルガモ		普及性	湖・沼・池/水田・ハス田	繁殖鳥・越冬鳥		
トモエガモ		希少性 指標性	湖・沼・池	越冬鳥		
ミサゴ		希少性 指標性 上位性	河川(汽水域/下流域) 湖・沼・池/礫浜・岩浜/干潟	繁殖鳥、越冬鳥(広い開水面で採餌)		
クマタカ		希少性 指標性 上位性	亜高山植生/山地常緑針葉樹林/山地落葉広葉樹林/山地低木林/低地落葉広葉樹林	潜在的な繁殖鳥・越冬鳥		
イヌワシ		希少性 指標性 上位性	亜高山植生/山地常緑針葉樹林/山地落葉広葉樹林/山地低木林	潜在的な繁殖鳥・越冬鳥		
オオタカ		希少性	乾性草地/河川(下流域・中流域)	越冬鳥(河川敷等で採餌)		
ツミ		上位性	低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	繁殖鳥・越冬鳥		
ハイタカ		希少性 上位性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	越冬鳥		
ノスリ		上位性	乾性草地/河川(下流域・中流域)	越冬鳥(河川敷等で採餌)		
サンバ		指標性 上位性	低地常緑針葉樹林/低地落葉広葉樹林	繁殖鳥		
チュウヒ		希少性 指標性 上位性	湿性草地	越冬鳥		
ハヤブサ		希少性 指標性 上位性	礫浜・岩浜/干潟/崖(岩)	繁殖鳥/越冬鳥		
チョウゲンボウ		指標性 上位性	乾性草地/畑・牧草地/造成地	越冬鳥(草地で採餌)		
キジ		指標性 普及性	畑・牧草地	繁殖鳥・越冬鳥		
ウスラ		希少性 指標性	乾性草地/畑・牧草地	越冬鳥		
ナベヅル		希少性 指標性	湿性草地/水田・ハス田	潜在的な越冬鳥(少数が不定期に越冬)		
マナヅル		希少性 指標性	湿性草地/水田・ハス田	潜在的な越冬鳥		
クイナ		希少性 指標性	湿性草地	越冬鳥		
ヒクイナ		指標性	湿性草地/水田・ハス田	繁殖鳥・越冬鳥(少数)		
コチドリ		指標性	造成地	繁殖鳥・越冬鳥		
イカルチドリ		指標性	洲	繁殖鳥・越冬鳥		
シロチドリ		希少性 指標性	洲/砂浜	繁殖鳥・越冬鳥		
タマシギ		指標性	水田・ハス田	繁殖鳥・越冬鳥		
ヘラシギ		希少性 指標性	干潟	通過鳥		
ミユビシギ		指標性	砂浜	通過鳥		
アカアシシギ		希少性 指標性	干潟	通過鳥		
カラフトアオアシシギ		希少性 指標性	干潟	通過鳥		
ダイシャクシギ		指標性	干潟	通過鳥		
ホウロクシギ		希少性 指標性	干潟	通過鳥・越冬鳥		
セイタカシギ		希少性	水田・ハス田	通過鳥		
ツバメチドリ		希少性 指標性	洲/造成地	繁殖鳥		
ズグロカモメ		希少性	干潟	越冬鳥		
コアシサシ		希少性 指標性	洲/砂浜	繁殖鳥		
カンムリウミスズメ		希少性	礫浜・岩浜	繁殖可能性あり		
コノハズク		指標性 上位性	山地常緑針葉樹林/山地落葉広葉樹林	繁殖鳥		
アオハズク		指標性 上位性	低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	繁殖鳥		
フクロウ		指標性 上位性 普及性	低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	繁殖鳥・越冬鳥		
ブッポウソウ		希少性 指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林	繁殖鳥		
ヤマセミ		指標性 上位性	河川(上流域)/崖(土)	繁殖鳥・越冬鳥		
カワセミ		指標性 上位性 普及性	河川(下流域・中流域) 小河川・水路/湖・沼・池/崖(土)	繁殖鳥・越冬鳥		
アオグラ	指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林	繁殖鳥・越冬鳥			
ヤイロチョウ	希少性 指標性	低地常緑広葉樹林/人工林	繁殖鳥			

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考	
鳥類	ヒバリ	指標性	畑・牧草地	繁殖鳥・越冬鳥	
	ツバメ	指標性	市街地	繁殖鳥	
	コシアカツバメ	指標性	市街地	繁殖鳥	
	ピンズイ	指標性	亜高山植生	繁殖鳥	
	サンショウクイ	希少性 指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	繁殖鳥	
	カワガラス	指標性	普及性 低地低木林/果樹園・植木畑	繁殖鳥・越冬鳥	
	カヤクグリ	指標性	河川(上流域)	繁殖鳥・越冬鳥	
	コマドリ	指標性	普及性 亜高山植生	繁殖鳥	
	ルリビタキ	希少性 指標性	普及性 亜高山植生	繁殖鳥	
	イソヒヨドリ	指標性	礫浜・岩浜	繁殖鳥・越冬鳥	
	ウグイス	指標性	普及性 山地低木林	繁殖鳥	
	オオソシキリ	指標性	普及性 湿性草地	繁殖鳥	
	ウチヤマセンニュウ	希少性	乾性草地	繁殖鳥	
	メボソムシクイ	指標性	亜高山植生	繁殖鳥	
	キビタキ	指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/人工林	繁殖鳥	
	サンコウチョウ	指標性	低地常緑針葉樹林/人工林	繁殖鳥	
	ヒガラ	指標性	山地常緑針葉樹林	繁殖鳥	
	シジュウカラ	指標性	普及性 緑の多い住宅地/公園	繁殖鳥・越冬鳥	
	ヤマガラ	普及性	普及性 低地常緑広葉樹林	繁殖鳥・越冬鳥	
	キバシリ	指標性	山地常緑針葉樹林/山地落葉広葉樹林	繁殖鳥・越冬鳥	
	メジロ	指標性	普及性 緑の多い住宅地	繁殖鳥・越冬鳥	
	ホオジロ	指標性	低地低木林/果樹園・植木畑	繁殖鳥・越冬鳥	
	ホオアカ	指標性	亜高山植生	繁殖鳥	
	オオジュリン	指標性	湿性草地	越冬鳥	
	ホシガラス	指標性	亜高山植生	繁殖鳥・越冬鳥	
	爬虫類	タワヤモリ	希少性 指標性	礫浜・岩浜/崖(岩)	岩場に生息する
		タカチホヘビ	希少性 指標性	普及性 山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林	
ジムグリ		希少性 指標性	山地落葉広葉樹林/低地落葉広葉樹林/低地常緑広葉樹林		
イシガメ		希少性 指標性	普及性 小河川・水路/湖・沼・池	産卵	
アカウミガメ		希少性 指標性	普及性 砂浜	産卵	
スッポン	希少性	普及性 河川(下流域・中流域)/湖・沼・池	産卵		
両生類	トノサマガエル	指標性	普及性 水田・水路/湖・池・沼		
	ニホンアカガエル	希少性 指標性	普及性 水田・水路/湖・池・沼	丘陵の湿田で産卵	
	シュレーゲルアオガエル	指標性	普及性 水田・水路/湖・池・沼	水田の畦などに産卵	
	カジカガエル	指標性	普及性 河川(上流域・中流域)		
	カスミサンショウウオ	希少性 指標性	水田・水路/湖・池・沼	山間の水田等で産卵	
	ブチサンショウウオ	希少性 指標性	河川(上流域)	産卵(成体の生息地は樹林地)	
	オオダイゴハラサンショウウオ	希少性 指標性	河川(上流域)	産卵(成体の生息地は樹林地)	
	ハコネサンショウウオ	希少性 指標性	河川(上流域)	産卵(成体の生息地は樹林地)	
オオサンショウウオ	希少性 指標性	上位性 河川(上流域/上下流の連続性)			
頭甲類・魚類	スナヤツメ	希少性	河川(上流域)		
	オオウナギ	希少性	上位性 河川(汽水域・下流域/上下流の連続性)		
	アユ	指標性	普及性 河川(中流域/上下流の連続性)		
	シラウオ	希少性	河川(汽水域)		
	アマゴ	指標性	上位性 普及性 河川(上流域)		
	サツキマス(降海型アマゴ)	希少性	上位性 河川(汽水域・下流域/上下流の連続性)		
	カワムツA型	指標性	河川(下流域)/小河川・水路		
	カワムツB型	指標性	普及性 河川(上流域)		
	オイカワ	指標性	普及性 河川(中流域)/小河川・水路		
	ウグイ	指標性	河川(中流域)		
	タカハヤ	指標性	河川(上流域)		
	タモロコ	指標性	河川(下流域)/小河川・水路		
	ムギツク	指標性	河川(中流域)		
	モツゴ	指標性	河川(下流域)/小河川・水路		
	カマツカ	指標性	河川(中流域)		
	コウライイトモロコ	指標性	河川(中流域)		
	イトモロコ	指標性	河川(中流域)		
	コウライニゴイ	指標性	河川(下流域)		
	コイ	指標性	普及性 河川(下流域)/小河川・水路/湖・沼・池		
	ギンブナ	指標性	普及性 河川(下流域)/小河川・水路/湖・沼・池/水田・ハス田		
	ヤリタナゴ	指標性	普及性 河川(下流域)/小河川・水路		
	ドジョウ	指標性	普及性 河川(下流域)/小河川・水路/湖・沼・池/水田・ハス田		
	スジシマドジョウ(中型種)	指標性	河川(下流域)		
	シマドジョウ	指標性	河川(中流域)		
	ナガレホトケドジョウ	希少性	河川(上流域)		
	ギギ	指標性	河川(中流域)		
	アカザ	指標性	河川(中流域)		
	ナマス	指標性	上位性 普及性 河川(下流域)/小河川・水路/水田・ハス田		
	メダカ	指標性	普及性 河川(下流域)/小河川・水路/湖・沼・池/水田・ハス田		
	ガンテンイシヨウジ	指標性	河川(汽水域)/藻場(アマモ場)		
ボラ	指標性	普及性 河川(汽水域)			
セスジボラ	指標性	普及性 河川(汽水域)			
アカメ	希少性	上位性 河川(汽水域)/藻場(アマモ場)	幼魚は藻場で成長する		
スズキ	指標性	河川(汽水域)			
オヤニラミ	希少性	河川(中流域)			
シマイサキ	指標性	河川(汽水域)			
コトヒキ	指標性	普及性 河川(汽水域)			
クロダイ	指標性	河川(汽水域)	仔魚の採餌場		
キチヌ	指標性	河川(汽水域)			

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考
頭甲類・魚類	コブシロ	指標性	河川 (汽水域)	
	ロウニンアジ	指標性	河川 (汽水域)	
	カワアナゴ	指標性	河川 (汽水域・下流域)	
	ドンコ	指標性	河川 (上流域)	
	サツキハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	ベニツケサツキハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	ヒメハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	タネハゼ	希少性	河川 (汽水域)	
	アベハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	キララハゼ属(スジハゼ類)	指標性	河川 (汽水域) / 藻場 (アマモ場)	
	マサゴハゼ	指標性	干潟 / 河川 (汽水域)	
	ヒナハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	ゴクラクハゼ	指標性	河川 (下流域 / 上下流の連続性)	
	シマヨシノボリ	指標性	河川 (中流域 / 上下流の連続性)	
	クロヨシノボリ	指標性	河川 (上流域 / 上下流の連続性)	
	オオヨシノボリ	指標性	河川 (上流域 / 上下流の連続性)	
	ルリヨシノボリ	指標性	河川 (上流域 / 上下流の連続性)	
	トウヨシノボリ 縞鱧型	指標性	河川 (下流域) / 小河川・水路 / 湖・沼・池	
	カワヨシノボリ	指標性	普及性 河川 (中流域・上流域)	
	チヂブ	指標性	河川 (汽水域)	
	ヌマチチブ	指標性	河川 (下流域)	
	シモフリシマハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	ウロハゼ	指標性	河川 (汽水域) / 干潟	
	ゴマハゼ	希少性	河川 (汽水域)	
	ニクハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	ビリンゴ	指標性	河川 (汽水域)	
	チクゼンハゼ	希少性	河川 (汽水域)	
	ウキゴリ	指標性	河川 (下流域 / 上下流の連続性)	
	スミウキゴリ	指標性	河川 (汽水域・下流域 / 上下流の連続性)	
	エドハゼ	希少性	河川 (汽水域)	
	マハゼ	指標性	普及性 河川 (汽水域) / 干潟	
	アシシロハゼ	指標性	河川 (汽水域)	
	ヒモハゼ	指標性	河川 (汽水域) / 干潟	
	ミズハゼ	指標性	河川 (汽水域) / 干潟	
	イドミズハゼ	希少性	河川 (汽水域) / 干潟	
	シロウオ	希少性	河川 (汽水域)	
	ボウズハゼ	指標性	河川 (中流域 / 上下流の連続性)	
	タバクチ	希少性	河川 (汽水域) / 干潟	
	トビハゼ	指標性	普及性 河川 (汽水域) / 干潟	
	カジカ (大卵型)	希少性	河川 (上流域)	
	カジカ (小卵回遊型)	希少性	河川 (下流域 / 上下流の連続性)	
	アユカケ (カマキリ)	希少性	上位性 河川 (下流域・中流域 / 上下流の連続性)	
	昆虫類	モートンイトトンボ	希少性 指標性	湿性草地
キイトトンボ		指標性	湿性草地	
コバネアオイトトンボ		希少性 指標性	湖・沼・池	
シコクトゲオトンボ		指標性	河川 (上流域)	
ムカシトンボ		指標性	河川 (上流域)	
ニシカワトンボ		指標性	小河川・水路	
ハグロトンボ		指標性	小河川・水路	
エゾトンボ		指標性	湿性草地	
クロサナエ		指標性	河川 (上流域)	
キイロサナエ		指標性	小河川・水路	
ミヤマサナエ		指標性	河川 (下流域 / 中流域)	
ヒメサナエ		指標性	河川 (上下流の連続性)	
ナニワトンボ		希少性 指標性	湖・沼・池	
キイロヤマトンボ		希少性 指標性	河川 (中流域・下流域)	
ミルンヤンマ		指標性	河川 (上流域)	
ミナミヤンマ		希少性 指標性	河川 (上流域)	
アオヤンマ		希少性 指標性	湿性草地	
ベッコウトンボ		希少性 指標性	湖・沼・池	
シオカラトンボ		指標性	水田・ハス田	
シオヤトンボ		普及性	湿性草地	
ショウジョウトンボ		指標性	水田・ハス田	
ヒメアカネ		指標性	湿性草地	
アキアカネ		普及性	水田・ハス田	
ハッチョウトンボ		指標性	湿性草地	
ミヤマアカネ		指標性	小河川・水路	
チョウトンボ		指標性	湖・沼・池	
ハルゼミ		指標性	低地落葉広葉樹林	
クマゼミ		普及性	低地落葉広葉樹林 / 低地常緑広葉樹林	
タガメ		希少性 指標性	普及性 小河川・水路 / 湖・沼・池 / 水田・ハス田	
コオイムシ		希少性 指標性	湖・沼・池	
タイコウチ		指標性	湖・沼・池	
オオミズムシ		希少性 指標性	湖・沼・池	
ミズカマキリ		普及性	水田・ハス田	
エサキアメンボ		希少性 指標性	湖・沼・池	
イトアメンボ		希少性 指標性	湖・沼・池	
オヨギカタビロアメンボ		希少性 指標性	湖・沼・池	
カワラバッタ		指標性	洲	
マツムシ	指標性	普及性 乾性草地		

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考	
昆虫類	ゲンゴロウ	希少性 指標性	普及性	湖・沼・池／水田・ハス田	
	ヨドシロヘリハンミョウ	希少性 指標性		干潟（泥質）	
	ルイスハンミョウ	希少性 指標性		砂州・砂浜／干潟	
	カワラハンミョウ	希少性 指標性		洲	
	オオヒョウタンゴミムシ	希少性 指標性		砂浜、干潟	
	ツルギツヤムネハネカクシ	指標性		山地落葉広葉樹林	
	オオチャイロハナムグリ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	カブトムシ		普及性	低地落葉広葉樹林	
	ウミホソチビゴミムシ	希少性 指標性		河川（汽水域）／砂浜／干潟	
	オオトクリゴミムシ	希少性 指標性		湖・沼・池	
	ヒサゴチビゴミムシ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	ツノクロツヤムシ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	ヘイケボタル	指標性	普及性	湖・沼・池／水田・ハス田	
	ゲンジボタル	指標性	普及性	河川（中流域）／小河川・水路	
	ヒラズゲンセイ	希少性 指標性		緑の多い住宅地（木造建築物クマバチの巣）	
	アオスジアゲハ	指標性	普及性	低地常緑広葉樹林	
	オオウラギンヒョウモン	希少性 指標性		乾性草地	
	メスグロヒョウモン	指標性		低地落葉広葉樹林	
	オオウラギンズジヒョウモン	希少性 指標性		乾性草地	
	コムラサキ	指標性		低地落葉広葉樹林／低地低木林	
	オオムラサキ	希少性 指標性	普及性	低地落葉広葉樹林	
	ベニモンカラスシジミ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	ミヤマカラスシジミ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	カラスシジミ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	オナガシジミ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	ウラクロシジミ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	ヒサマツミドリシジミ	希少性 指標性		山地落葉広葉樹林	
	エゾミドリシジミ	指標性		山地落葉広葉樹林	
	フジミドリシジミ	指標性		山地落葉広葉樹林	
	オオミドリシジミ	指標性		低地落葉広葉樹林	
	ミドリシジミ	指標性		低地落葉広葉樹林	
	ウラムズジシジミ	指標性		山地落葉広葉樹林	
	ルーミスシジミ	希少性 指標性		低地常緑広葉樹林	
ムラサキシジミ	指標性		低地常緑広葉樹林		
タイワンツバメシジミ	希少性 指標性		乾性草地		
ギンイチモンジセセリ	希少性 指標性		乾性草地		
チャマダラセセリ	希少性 指標性		乾性草地		
オオチャバネセセリ	指標性		山地低木林／低地低木林		
甲殻類	テナガエビ		普及性	河川（下流域・中流域）	県内では絶滅か？  ヤナギ林に発生     ハンノキ林に発生  県内では絶滅か？
	ヒラテテナガエビ	希少性 指標性		河川（上下流の連続性）	
	ヤマトヌマエビ	希少性 指標性		河川（上流域・上下流の連続性）	
	モクズガニ	希少性 指標性	普及性	河川（上下流の連続性）	
	シオマネキ	希少性 指標性	普及性	干潟	
	ハクセンシオマネキ	希少性 指標性	普及性	干潟	
	アシハラガニ	指標性		河川（汽水域）	
二枚貝	カブトガニ	希少性 指標性	普及性	干潟	泥質干潟 砂泥質干潟
	ハマグリ		普及性	干潟	
	イシガイ	指標性		小河川・水路	
	マツカサガイ	希少性 指標性		小河川・水路	
	トンガリササノハガイ	希少性 指標性		小河川・水路	
	トガイ	指標性		小河川・水路／湖・沼・池	
	ドブガイ	指標性		小河川・水路	
ヤマトシジミ	指標性	普及性	小河川・水路		
マシジミ		普及性	河川（下流域／中流域）／小河川・水路／湖・沼・池		
巻貝	マルタニシ	希少性		小河川・水路／湖・沼・池／水田・ハス田	

特殊なビオトープタイプ

分類	種	選定理由	ビオトープタイプ	備考
哺乳類	コキクガシラコウモリ	指標性	洞窟	
	キクガシラコウモリ	指標性	洞窟	
	モモジロコウモリ	指標性	洞窟	
	ノレンコウモリ	希少性 指標性	洞窟	
	ユビナガコウモリ	指標性	洞窟	
爬虫類	タワヤモリ	希少性 指標性	岩場	
昆虫類	ハッチョウトンボ	希少性 指標性	湿原	
	ルリボシヤンマ	希少性 指標性	中層湿原	
	オオコイムシ	指標性	中層湿原	
	インベノメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	リュウノメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	トウゲンメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	ゼンジョウメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	ヨシダメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	キウチメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	ヒメセメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	ケンザンメクラチビゴミムシ	希少性 指標性	洞窟	
	リュウノツヤムネハネカクシ	希少性 指標性	洞窟	
	クロツバメシジミ	希少性 指標性	岩場	
	ツマジロウラジャノメ	希少性 指標性	岩場	

上位分類	種名	選定理由		ビオトープタイプ	備考
植物	ミズシラ	希少性		湖・沼・池	
	コシダ		普及性	人工林	
	ウラジロ		普及性	人工林	
	ミズウラボ	希少性	指標性	水田・ハス田	
	オシダ		普及性	亜高山植生	
	イノデ類		指標性	人工林	
	テツホシダ	希少性		湿性草地	
	デンジソウ	希少性		水田・ハス田	
	サンショウモ	希少性		湖・沼・池／水田・ハス田	
	アカウキクサ	希少性		湖・沼・池	
	オオアカウキクサ	希少性		水田・ハス田	
	ウラジロモミ		指標性	亜高山植生／山地常緑針葉樹林	
	シコクシラベ	希少性	指標性	亜高山植生	
	ハリモミ	希少性	指標性	山地常緑針葉樹林	
	アカマツ		指標性	低地落葉広葉樹林	
	クロマツ		指標性	崖（岩）	
	コメツガ	希少性	指標性	亜高山植生	
	ツガ		指標性	山地常緑針葉樹林	
	スギ		指標性	人工林	
	ヒノキ		指標性	人工林	
	ビャクシン（イブキ）	希少性	普及性	崖（岩）	
	アスナロ		指標性	山地常緑針葉樹林	
	ヤマモモ		普及性	低地常緑広葉樹林	
	カワヤナギ	希少性		低地低木林	
	ネコヤナギ		指標性 普及性	低地低木林／河川（上流域／中流域）	
	ヤナギ類		指標性	河川（中流域）／洲	
	カワラハンノキ		指標性	低地低木林	
	アカカンバ		指標性 普及性	亜高山植生	
	クマンデ		指標性	低地落葉広葉樹林	
	イヌシデ		指標性	低地落葉広葉樹林	
	ツノハシバミ		普及性	河川（上流域）	
	クリ		指標性 普及性	低地落葉広葉樹林	
	シイ類		指標性 普及性	低地常緑広葉樹林	
	ブナ		指標性 普及性	山地落葉広葉樹林	
	イヌブナ	希少性	指標性	山地落葉広葉樹林	
	アカガシ		指標性	低地常緑広葉樹林	
	クヌギ		指標性 普及性	低地落葉広葉樹林	
	アラカシ		指標性	低地常緑広葉樹林	
	ミズナラ		指標性	山地落葉広葉樹林	
	ウバメガシ		指標性 普及性	低地常緑広葉樹林／崖（岩）	
	コナラ		指標性 普及性	低地落葉広葉樹林／人工林	
	イヌビワ		普及性	低地低木林	
	アコウ		普及性	崖（岩）	
	ツチトリモチ	希少性		低地常緑広葉樹林	
	クリンユキフデ		指標性	亜高山植生	
	サクラタデ		普及性	湿性草地	
	サイコクヌカボ	希少性		湖・沼・池	
ヤナギタデ		指標性	湿性草地／洲		
シロバナサクラタデ		指標性	湿性草地		
ミゾソバ		指標性	湿性草地／小河川・水路		
イタドリ		普及性	低地落葉広葉樹林／人工林		
ハマナデシコ		普及性	海岸植生		
カワラナデシコ		指標性 普及性	河川（中流域）／洲		
カワラアカザ	希少性		洲		
ホオノキ		指標性 普及性	低地落葉広葉樹林		
オオヤマレンゲ	希少性	普及性	山地常緑針葉樹林		
クスノキ		指標性 普及性	低地常緑広葉樹林		
ミヤマクロモジ		指標性	山地低木林		
タブノキ		指標性 普及性	低地常緑広葉樹林		
シロモジ		指標性	山地低木林／人工林		
シコクブシ		普及性	山地常緑針葉樹林／山地落葉広葉樹林		
ユキワリイチゲ	希少性	普及性	山地低木林／竹林		

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考
	シコクハンショウツル	希少性	山地落葉広葉樹林	
	オキナグサ	希少性	乾性草地	
	ナンテン	指標性 普及性	低地低木林	
	アケビ類	普及性	低地落葉広葉樹林	
	ジュンサイ	希少性 普及性	湖・沼・池	
	オニバス	希少性 指標性 普及性	小河川・水路／湖・沼・池	
	ハス	指標性	湖・沼・池	
	コウホネ	希少性 普及性	小河川・水路／湖・沼・池	
	オグラコウホネ	希少性	小河川・水路／湖・沼・池	
	ヒメコウホネ	希少性 普及性	小河川・水路／湖・沼・池	
	ミヤコアオイ	希少性	山地低木林	
	ナンカイアオイ	希少性	低地落葉広葉樹林／低地常緑広葉樹林／人工林	
	ヤッコソウ	希少性 指標性	低地常緑広葉樹林	
	ヤブツバキ	指標性 普及性	低地常緑広葉樹林	
	サザンカ	希少性	低地常緑広葉樹林	
	ハマヒサカキ	指標性	崖（岩）	
	ヒメシャラ	指標性	山地落葉広葉樹林	
	タカネオトギリ	普及性	亜高山植生	
	シマキケマン	希少性	海岸植生	
	シロイヌナズナ	希少性	公園など	
	ナズナ	普及性	水田・ハス田	
	ハマダイコン	指標性 普及性	海岸植生／砂浜	
	タイトゴメ	普及性	崖（岩）	
	アズマツメクサ	希少性	水田・ハス田	
	ノリウツギ	指標性	山地低木林／人工林	
	キレンゲショウマ	希少性 普及性	山地常緑針葉樹林	
	シコクチャルメルソウ	指標性	河川（上流域）	
	トサノチャルメルソウ	希少性	河川（上流域）	
	ウメバチソウ	普及性	河川（中流域）	
	タコノアシ	希少性 普及性	湿性草地／小河川・水路	
	トガスグリ	希少性	亜高山植生	
	ダイヤモンドソウ	希少性	河川（上流域）	
	ウチワダイヤモンドソウ	指標性	河川（上流域）	
	モミジバセンダイソウ	希少性	河川（上流域）	
	トベラ	指標性	崖（岩）	
	カワラサイコ	希少性	河川（中流域）／洲	
	ハクロバイ	希少性	亜高山植生	
	テリハキンバイ	希少性	山地低木林	
	ヒメツルキジムシロ	希少性	河川（上流域）	
	ヤマザクラ	指標性 普及性	低地落葉広葉樹林	
	シモツケ	指標性	山地低木林	
	ホソバノイブキシモツケ	希少性	河川（上流域）	
	トサシモツケ	普及性	河川（中流域）	
	ナルトオウギ	希少性 指標性	海岸植生	
	ハマエンドウ	指標性 普及性	砂浜	
	イヌハギ	希少性	河川（中流域）	
	ハギ類	指標性	低地落葉広葉樹林	
	ヒメフウロ	普及性	亜高山植生	
	シコクフウロ	指標性	亜高山植生	
	コフウロ	希少性 普及性	山地低木林	
	イワタイゲキ	希少性 普及性	海岸植生／崖（岩）	
	ハゼ	普及性	人工林	
	イロハカエデ	普及性	低地落葉広葉樹林	
	トチノキ	指標性 普及性	山地落葉広葉樹林	
	クロガネモチ	普及性	低地常緑広葉樹林	
	ハマナツメ	希少性	海岸植生	
	ハマボウ	普及性	河川（汽水域）	
	マルバグミ	指標性	崖（岩）	
	ナワシログミ	指標性	崖（岩）	
	アキグミ	指標性 普及性	低地低木林／河川（下流域）	
	タチツボスミレ	指標性	低地落葉広葉樹林	
	スミレ	指標性 普及性	洲	

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考
	シコクスミレ	希少性	山地落葉広葉樹林	
	ミソハコベ	指標性	水田・ハス田	
	ミソハギ	指標性 普及性	湿性草地	
	ミズマツバ	希少性	水田・ハス田	
	ヒメビシ	希少性	小河川・水路／湖・沼・池	
	オニビシ	希少性	湖・沼・池	
	ヒシ類	指標性 普及性	湖・沼・池	
	ミズユキノシタ	指標性	湖・沼・池	
	ホザキノフサモ	指標性 普及性	湖・沼・池／小河川・水路	
	タラノキ	指標性 普及性	山地低木林／低地低木林	
	ハマウド	普及性	海岸植生	
	ハマボウフウ	指標性 普及性	砂浜	
	ツルギハナウド	希少性 指標性 普及性	亜高山植生／山地常緑針葉樹林	
	セリ	普及性	水田・ハス田	
	ボタンボウフウ	希少性	海岸植生	
	ムカゴニンジン	希少性	湿性草地	
	リョウブ	指標性	人工林	
	サラサドウダン	希少性	山地落葉広葉樹林	
	コヨウラクツツジ	普及性	亜高山植生	
	アセビ	普及性	山地低木林／低地常緑広葉樹林	
	ハクサンシャクナゲ	希少性	亜高山植生	
	ツクシシャクナゲ	普及性	山地常緑針葉樹林／山地落葉広葉樹林	
	アワノミツバツツジ	指標性 普及性	山地低木林	
	モチツツジ	指標性 普及性	低地低木林／人工林	
	ツルギミツバツツジ	普及性	亜高山植生	
	コバノミツバツツジ	指標性 普及性	低地低木林／人工林	
	キシツツジ	指標性 普及性	低地低木林／河川（上流域）	
	コメツツジ	指標性	亜高山植生	
	オンツツジ	普及性	低地落葉広葉樹林	
	ハマボックス	普及性	海岸植生	
	シコクカッコソウ	希少性	山地落葉広葉樹林	
	イワザクラ	希少性	低地落葉広葉樹林	
	ハマサジ	希少性 指標性 普及性	河川（汽水域）	
	リンドウ	普及性	河川（中流域）	
	アサマリンドウ	普及性	山地落葉広葉樹林	
	アサザ	希少性 普及性	湖・沼・池	
	チョウジソウ	希少性	湿性草地	
	カワラマツバ	指標性	乾性草地／洲	
	ハマヒルガオ	指標性 普及性	砂浜	
	イワダレソウ	希少性	崖（岩）	
	ハマゴウ	指標性	海岸植生／砂浜	
	ミズトラノオ	希少性	湿性草地	
	テンニンソウ	普及性	山地常緑針葉樹林	
	ミゾコウジュ	希少性	湿性草地／洲	
	ナミキソウ	希少性	砂浜	
	アブノメ	指標性	水田・ハス田	
	ウンラン	希少性	砂浜	
	トモエシオガマ	指標性 普及性	亜高山植生	
	ナンゴククガイソウ	指標性 普及性	亜高山植生／山地落葉広葉樹林	
	ナンバンギセル	普及性	乾性草地	
	オオナンバンギセル	希少性	乾性草地	
	ハマウツボ	希少性	河川（下流域）	
	ノタヌキモ	希少性	湖・沼・池	
	イヌタヌキモ	希少性	湖・沼・池	
	オミナエシ	希少性 普及性	乾性草地	
	サウギキョウ	希少性	湿性草地	
	キキョウ	希少性 普及性	乾性草地	
	カワラハハコ	希少性	河川（中流域）／洲	
	カワラヨモギ	普及性	河川（下流域）	
	ヒメヨモギ	指標性	河川（下流域）	
	フクド	希少性	河川（汽水域）	
	ヨモギ	指標性	乾性草地／洲	

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考
	ホソバコングク	指標性	河川（中流域／上流域）	
	コモノギク	希少性 普及性	亜高山植生	
	ウラギク	希少性 普及性	河川（汽水域）	
	イワバノギク	希少性 指標性	河川（上流域）	
	トゲアザミ	指標性	亜高山植生	
	シコクアザミ	普及性	低地低木林／乾性草地	
	アゼトウナ	普及性	崖（岩）	
	シオギク	希少性 指標性	海岸植生	
	ナカガワノギク	希少性 指標性	河川（中流域）	
	フジバカマ	希少性 普及性	乾性草地	
	ツワブキ	普及性	海岸植生／崖（岩）	
	ハハコグサ	普及性	水田・ハス田	
	ハマニガナ	希少性 普及性	砂浜	
	コオニタビラコ	普及性	水田・ハス田	
	タイキンギク	普及性	海岸植生	
	アオヤギバナ	希少性 普及性	河川（上流域／中流域）	
	カンサイタンポポ	指標性	乾性草地	
	クマノギク	希少性	海岸植生	
	ネコノシタ	希少性	海岸植生	
	ウリカワ	指標性	水田・ハス田	
	オモダカ	指標性	水田・ハス田	
	ウミヒルモ	希少性 指標性	藻場	
	ミズオオバコ	希少性	湖・沼・池	
	シバナ	希少性	河川（汽水域）	
	エビモ	指標性	河川（中流域／下流域）／小河川・水路／湖・沼・池	
	ヒルムシロ	指標性	小河川・水路	
	センニンモ	指標性	河川（下流域）／湖・沼・池	
	ササバモ	指標性	河川（下流域）／小河川・水路	
	ヤナギモ	普及性	小河川・水路	
	リュウノヒゲモ	希少性	河川（汽水域）	
	イトモ	希少性	湖・沼・池	
	コアマモ	希少性 指標性	藻場／河川（汽水域）	
	アマモ	指標性 普及性	藻場	
	ムサシモ	希少性	水田・ハス田	
	サガミトリゲモ	希少性	水田・ハス田	
	トリゲモ	希少性	河川（下流域）	
	ホンゴウソウ	希少性	竹林	
	ウエマツソウ	希少性	竹林	
	キキョウラン	普及性	崖（岩）	
	カタクリ	希少性 指標性 普及性	山地落葉広葉樹林／山地低木林／低地落葉広葉樹林	
	アワコバイモ	希少性	山地落葉広葉樹林	
	イヤギボウシ	普及性	河川（上流域）	
	ウナズキギボウシ	普及性	河川（上流域）	
	スダレギボウシ	普及性	河川（上流域）	
	ヤブラン	指標性 普及性	竹林／人工林	
	マイヅルソウ	指標性 普及性	亜高山植生	
	ミヤマエンレイソウ	普及性	山地落葉広葉樹林	
	バイケイソウ	普及性	山地常緑針葉樹林	
	ヤマノイモ	普及性	低地落葉広葉樹林	
	ミズアオイ	希少性 普及性	水田・ハス田	
	コナギ	指標性 普及性	水田・ハス田	
	オオトウシンソウ	希少性	洲	
	ホシクサ	指標性	水田・ハス田	
	ニッポンイヌノヒゲ	指標性	水田・ハス田	
	クロホシクサ	希少性	水田・ハス田	
	ヒロハイヌノヒゲ	指標性	水田・ハス田	
	チガヤ	指標性 普及性	乾性草地／河川（中流域）	
	ケカモノハシ	指標性	砂浜	
	オギ	普及性	湿性草地／小河川・水路	
	ススキ	指標性 普及性	乾性草地	
	アイアシ	指標性	河川（汽水域）	
	ヨシ	指標性 普及性	湿性草地／河川（汽水域／下流域／中流域）／小河川・水路／湖・沼・池	

上位分類	種名	選定理由		ビオトープタイプ	備考
	ツルヨシ	指標性	普及性	湿性草地／河川（中流域）／小河川・水路／洲	
	マダケ	指標性		竹林	
	ハチク	指標性		竹林	
	モウソウチク	指標性		竹林	
	ミヤマクマザサ	指標性		亜高山植生	
	スズタケ	指標性		山地落葉広葉樹林	
	マコモ	指標性		河川（下流域）／小河川・水路／湖・沼・池	
	ツルギテンナンショウ	希少性		山地落葉広葉樹林	
	イシヅチテンナンショウ	指標性		山地落葉広葉樹林	
	ムサシアブミ		普及性	低地常緑広葉樹林	
	ユキモチソウ	希少性	普及性	低地落葉広葉樹林／人工林	
	ミツバテンナンショウ		普及性	山地低木林	
	ウキクサ類	指標性		水田・ハス田	
	ミクリ	希少性		小河川・水路	
	ナガエミクリ	希少性		小河川・水路	
	コガマ	希少性	普及性	湿性草地	
	ガマ類	指標性	普及性	湿性草地／河川（下流域）／小河川・水路／湖・沼・池	
	ウマスゲ	希少性		河川（下流域）	
	コウボウムギ	指標性	普及性	砂浜	
	キノクニスゲ	希少性		崖（岩）	
	ヒゲスゲ	希少性		崖（岩）	
	コウボウシバ	指標性		砂浜	
	シオクグ	指標性		河川（汽水域）	
	ピロードテンツキ	希少性		砂浜	
	アンペライ	希少性		湿性草地	
	ヒメカンガレイ	希少性		湖・沼・池	
	イセウキヤガラ	希少性	普及性	河川（汽水域）	
	イワチドリ	希少性		河川（上流域）	
	シラン	希少性	普及性	河川（中流域／上流域）	
	エビネ	希少性	指標性	低地常緑広葉樹林／低地落葉広葉樹林	
	キンラン	希少性	指標性	低地落葉広葉樹林	
	シュンラン		普及性	低地落葉広葉樹林	
	クマガイソウ	希少性	普及性	人工林／竹林	
	アキザキヤツシロラン	希少性		竹林	
	ノビネチドリ	希少性	普及性	山地常緑針葉樹林／山地落葉広葉樹林	
	ムヨウラン	希少性		低地常緑針葉樹林	
	ホザキイチヨウラン	希少性		山地常緑針葉樹林	
	アリドシラン	希少性		亜高山植生	

特殊なビオトープタイプ

上位分類	種	選定理由		ビオトープタイプ	備考
植物	ヤマドリゼンマイ	希少性	指標性	中層湿原	
	ヒメシダ		指標性	中層湿原	
	ウナギツカミ	希少性		中層湿原	
	アキノウナギツカミ		指標性	中層湿原	
	ミゾソバ		指標性	中層湿原	
	ヒツジグサ	希少性	普及性	中層湿原	
	ミズオトギリ	希少性	指標性	中層湿原	
	イシモチソウ	希少性		中層湿原	
	モウセンゴケ	希少性	普及性	中層湿原	
	ミソハギ		普及性	中層湿原	
	エゾミソハギ	希少性		中層湿原	
	リンドウ		指標性	中層湿原	
	ホソバリンドウ		普及性	中層湿原	
	ミミカキグサ	希少性		中層湿原	
	ホザキノミミカキグサ	希少性		中層湿原	
	キセルアザミ	希少性	指標性	中層湿原	
	スイラン	希少性		中層湿原	
	タムラソウ	希少性		中層湿原	
	アギナシ	希少性		中層湿原	
	ヒルムシロ		指標性	中層湿原	
フトヒルムシロ		指標性	中層湿原		

上位分類	種名	選定理由	ビオトープタイプ	備考
	イトイヌノヒゲ	希少性	中層湿原	
	シロイヌノヒゲ	希少性	中層湿原	
	ヨシ	指標性	中層湿原	
	ヤマトミクリ	希少性	中層湿原	
	ヒメミクリ	希少性	中層湿原	
	コガマ	希少性	中層湿原	
	カサスゲ	指標性	中層湿原	
	ホタルスゲ	普及性	中層湿原	
	ハリイ	指標性	中層湿原	
	イヌノハナヒゲ	指標性	中層湿原	
	コイヌノハナヒゲ	指標性	中層湿原	
	ホタルイ	指標性	中層湿原	
	カンガレイ	指標性	中層湿原	
	アブラガヤ	指標性	中層湿原	
	サギソウ	希少性	中層湿原	
	ミズトンボ	希少性	中層湿原	
	ミズチドリ	希少性	中層湿原	
	トキソウ	希少性	中層湿原	

### 参考 - 3 チェックリスト

とくしまビオトープ・プラン チェックリスト		公共事業でビオトープを保全、復元、創出する場合	1
<b>■ 準備・構想段階</b>		記載 ページ	評価
<input type="checkbox"/> ビオトープについての勉強会を開き、ビオトープについての理解を深めた。		120	
この欄に具体的内容や結果を記入してください。			
⇒			
<input type="checkbox"/> 他の取り組み事例の視察などにより、整備・活用の課題を把握した。		120	
⇒			
<input type="checkbox"/> 「ビオトープ現況図」「広域ビオトープネットワーク方針図」「ビオトープネットワーク方針図」を用いて対象地のビオトープの概要と計画上の位置づけを把握した。		120	
⇒			
<input type="checkbox"/> 既存資料やヒアリングにより生物の生息・生育状況を把握するとともに、県版レッドデータブックに掲載されている保護重要性の高い生物の生息・生育状況の概況を把握した。		120	
⇒			
<input type="checkbox"/> 自然環境に与える影響の回避、低減、代償措置を検討した。		120	
⇒			
<b>■ 計画段階</b>			
<input type="checkbox"/> 対象地とその周辺地域の植生、植物相、動物相を現地調査と資料調査によって把握し、かつて見られた種と現在見られる種に分けて整理した。		121	
⇒			
<input type="checkbox"/> レッドデータブック掲載種などの、保護重要性の高い生物の生息・生育状況を確認し、生息・生育位置を記録した。		121	
⇒			
<input type="checkbox"/> 既存資料などから、地形、地質、土壌などの基盤的自然条件把握した。		121	
⇒			
<input type="checkbox"/> 「広域ビオトープネットワーク方針図」「ビオトープネットワーク方針図」を用いて、対象地の県レベルのビオトープネットワーク上の位置づけを把握した。		121	
⇒			
<input type="checkbox"/> 事業をビオトープネットワークの形成に役立てる計画とした。		121	
⇒			
<input type="checkbox"/> 「ビオトープ現況図」を用いて、事業対象地とその周辺のビオトープタイプの概要を把握した。		121	
⇒			
<input type="checkbox"/> 縮尺1万分の1～5千分の1程度の地形図をビオトープタイプごとに色分けし、事業対象地周辺のビオトープ分布を把握した。		121	
⇒			

## とくしまビオトープ・プラン チェックリスト

## 公共事業でビオトープを保全、復元、創出する場合

2

<input type="checkbox"/> 保全すべきビオトープに与える影響の回避、低減、代償措置を検討した。	122	
⇒		
<input type="checkbox"/> 自然環境調査とビオトープネットワーク上の位置づけの検討結果に基づき、目標とするビオトープと目標種を定めた。	122	
⇒		
<input type="checkbox"/> ビオトープの復元、創出にあたり、事業対象地に本来成立しているビオトープを目標とした。	122	
⇒		
<input type="checkbox"/> 目標種は、事業対象地やその周辺に生息・生育していたことのある種の中から、設定した。	122	
⇒		
<input type="checkbox"/> 短期、中期、長期の目標種を設定した。	122	
⇒		
<input type="checkbox"/> 餌を与えるなどしなくても持続的に生息・生育できる種を目標とし、目標種が持続的に世代交代をくり返していけるビオトープを計画した。	122	
⇒		
<input type="checkbox"/> 県民参加による整備や活用、維持管理体制を計画した。	123	
⇒		

## ■ 設計段階

<input type="checkbox"/> 目標とする生物の、非干渉距離を考慮して、ビオトープを配置した。	124	
⇒		
<input type="checkbox"/> 水辺と林、林と草地、草地と水辺などの異なる環境が接し、移り変わっていく場所（エコトーン）が確保できるようにビオトープを配置した。	124	
⇒		
<input type="checkbox"/> 地域に昔からある質の高いビオトープについて調べ、これをモデルとした。	124	
⇒		
<input type="checkbox"/> 植生は苗木などから時間をかけて遷移させていき、生物はビオトープネットワークを通じて周辺から呼び込んでくるようにした。	124	
⇒		
<input type="checkbox"/> 土壌、水分条件などの自然基盤を整えるように設計した。	124	
⇒		
<input type="checkbox"/> 目標とする環境へと誘導する植生管理計画などを策定した。	124	
⇒		

<input type="checkbox"/> ビオトープを保全する場合に、生物多様性を高めるために必要な管理方法を検討した。	124	
⇒		
<input type="checkbox"/> 自生種による植生とするために、苗木などの調達方法を設計内容に反映した。	125	
⇒		
<input type="checkbox"/> 構造物などを極力つくらぬよう設計した。	125	
⇒		
<input type="checkbox"/> 現場発生材の利用を設計した。	125	
⇒		
<input type="checkbox"/> 隙間の多い構造とするように設計した。	125	
⇒		
<input type="checkbox"/> 構造物などがエコトーン（環境推移帯）を分断しないように設計した。	125	
⇒		
<input type="checkbox"/> 伝統的な工法を採用した。	125	
⇒		
<input type="checkbox"/> 新しい工法を開発、採用した。	125	
⇒		

### ■ 施工段階

<input type="checkbox"/> 既に生息・生育している生物に対する施工時の影響防止・低減策を実施した。	126	
⇒		
<input type="checkbox"/> 地域住民や民間団体などの積極的な参加を図った。	126	
⇒		
<input type="checkbox"/> 自然に精通した人の助言を受けながら現場管理を進めるよう、施工業者へ指導を行った。	126	
⇒		
<input type="checkbox"/> 施工業者の意識向上を図るための勉強会の実施や、模型による造成の検討などを行った。	126	
⇒		

## とくしまビオトープ・プラン チェックリスト

## 公共事業でビオトープを保全、復元、創出する場合

4

## ■ 維持管理段階

<input type="checkbox"/> 地域住民や民間団体などとの協働による管理を行っている。	127	
⇒		
<input type="checkbox"/> 「育む会」などの組織づくりを行っている。	127	
⇒		
<input type="checkbox"/> 草刈りなどを行う際に、生物の逃げ場を確保している。	127	
⇒		
<input type="checkbox"/> 草刈りなどの管理を、生物に影響の少ない時期にしている。	127	
⇒		
<input type="checkbox"/> さまざまな遷移段階の自然が配置されるように留意して管理を行っている。	127	
⇒		
<input type="checkbox"/> 移入種などを取り除くとともに、放流などを防ぐための看板設置などを行っている。	127	
⇒		

## ■ 事後評価（モニタリング）段階

<input type="checkbox"/> 事業実施後、定期的に植生、植物相、動物相の調査を行い、目標環境と目標種の回復状況を把握している。	128	
⇒		
<input type="checkbox"/> 動物を保護するために設置した施設について、科学的な調査を行い、その効果を明らかにしている。	128	
⇒		
<input type="checkbox"/> モニタリングの結果を、ビオトープの改良や植生管理などに反映している。	128	
⇒		
<input type="checkbox"/> ビオトープの管理活用状況を定期的に把握している。	128	
⇒		
<input type="checkbox"/> 管理活用が不十分な場合、利用者や管理者にヒアリングなどを実施して理由を明らかにし、管理活用体制の再検討を行っている。	128	
⇒		

とくしまビオトープ・プラン チェックリスト 県民や事業者の活動でビオトープを保全、復元、創出する場合 1		
■ 準備・構想段階	記載 ページ	評価
<input type="checkbox"/> ビオトープについての勉強会を開き、ビオトープについての理解を深めた。	130	
この欄に具体的内容や結果を記入してください。 ⇒		
<input type="checkbox"/> 他の取り組み事例の視察や、経験者から話を聞くことにより、ビオトープのイメージを明確にした。	130	
⇒		
<input type="checkbox"/> 「ビオトープ現況図」「広域ビオトープネットワーク方針図」「ビオトープネットワーク方針図」を用いて、活動対象地のビオトープの概況と計画上の位置づけを把握した。	131	
⇒		
<input type="checkbox"/> 活動対象地と周辺をみんなで歩いて、ビオトープの分布を把握した。	131	
⇒		
<input type="checkbox"/> 活動をビオトープネットワークの形成に役立てる方法を検討した。	131	
⇒		
<input type="checkbox"/> 昔の地図を入手したり、高齢者に尋ねたりして、昔の環境について調べた。	131	
⇒		
<input type="checkbox"/> 目標とするビオトープや活動の目標について検討した。	131	
⇒		
<input type="checkbox"/> ビオトープの保全、復元、創出のいずれを活動の主体とするか、また、これを組み合わせるかなどの検討を行った。	131	
⇒		
<input type="checkbox"/> 県民や民間団体などへの支援を検討した（事業者）。	132	
⇒		
<input type="checkbox"/> 行政との協働の可能性を検討した。	132	
⇒		
<input type="checkbox"/> 活動対象地の土地の所有や法規制、既存計画などを把握した（県民）。	132	
⇒		
<input type="checkbox"/> 対象地の周辺で活動している県民や民間団体、学校の有無を調べ、協働を検討した（事業者）。	132	
⇒		
■ 計画段階		
<input type="checkbox"/> 活動対象地と周辺の自然や生物について、民間団体や研究者から教えてもらった。	133	
⇒		

## とくしまビオトープ・プラン チェックリスト 県民や事業者の活動でビオトープを保全、復元、創出する場合 2

<input type="checkbox"/> 現地調査やヒアリングによって、地域の生物や自然について調べた。	133	
⇒		
<input type="checkbox"/> 資料によって、今いる生物と昔いた生物を調べた。	133	
⇒		
<input type="checkbox"/> 古い地図などから、昔の地域の環境を調べた。	133	
⇒		
<input type="checkbox"/> 「広域ビオトープネットワーク方針図」「ビオトープネットワーク方針図」を用いて、活動対象地のビオトープネットワーク上の位置づけを把握した。	134	
⇒		
<input type="checkbox"/> 「ビオトープ現況図」を用いて、活動対象地と周辺のビオトープタイプの概況を把握した。	134	
⇒		
<input type="checkbox"/> 縮尺1万分の1～5千分の1程度の地形図をビオトープタイプごとに色分けし、活動対象地周辺のビオトープ分布を把握した。	134	
⇒		
<input type="checkbox"/> 活動をビオトープネットワークの形成に役立てる方法を検討した。	134	
⇒		
<input type="checkbox"/> 自然環境の把握やビオトープネットワーク上の位置づけの検討結果に基づき、目標とするビオトープと目標種を検討した。	135	
⇒		
<input type="checkbox"/> 地域に見られるさまざまなビオトープをみつめた見本園とするか、その場所に本来あるべきビオトープを保全、復元、創出するかを検討した。	135	
⇒		
<input type="checkbox"/> 短期、中期、長期の目標種を設定した。	135	
⇒		
<input type="checkbox"/> 目標種を外から持ち込むことは避け、ネットワークにより周辺のビオトープから生物がやってくるようにした。	135	
⇒		
<input type="checkbox"/> 餌を与えるなどしなくても持続的に生息・生育できる種を目標とし、目標種が持続的に世代交代をくり返していけるビオトープを計画した。	135	
⇒		
<input type="checkbox"/> 整備や維持管理に、より多くの人に参加してもらうための方法や体制を検討した。	135	
⇒		

**とくしまビオトープ・プラン チェックリスト 県民や事業者の活動でビオトープを保全、復元、創出する場合 3**

**■ 設計段階**

<input type="checkbox"/> ビオトープを地域に開かれたものとするよう検討した（事業者）	136	
⇒		
※その他の項目は、公共事業でビオトープを保全、復元、創出する場合と、学校でビオトープを保全、復元、創出する場合のチェックリストを利用して下さい。		

**■ 施工段階（主に復元・創出の場合）**

<input type="checkbox"/> 広報を行い、ビオトープづくりに多くの人の参加を図った。	136	
⇒		
<input type="checkbox"/> ビオトープの保全、復元、創出において、グラウンドワークを展開し、県民、民間団体、事業者、行政の協働を図った。	136	
⇒		

**■ 維持管理段階**

<input type="checkbox"/> 県民、民間団体、事業者、行政の協働による管理を行っている。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> 草刈りなどを行う際に、生物の逃げ場を確保する管理を行っている。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> 草刈りなどの管理を、生物に影響の少ない時期にしている。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> さまざまな遷移段階の自然が配置されるように留意して管理を行っている。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> 移入種などを取り除くとともに、放流などを防ぐための看板設置などを行っている。	137	
⇒		

とくしまビオトープ・プラン チェックリスト 県民や事業者の活動でビオトープを保全、復元、創出する場合 4

■ 事後評価（モニタリング）段階

<input type="checkbox"/> 目標種の生息・生育空間となっているかを確認し、不十分な場合には改善している。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> 地域のビオトープネットワークの一つとして機能しているかを確認し、不十分な場合には改善している。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> 事業者の活動で保全、復元、創出されたビオトープが地域に開かれたものになっているか、また、地域住民、民間団体などが継続的に係わっているかを確認し、不十分な場合には改善している。	137	
⇒		
<input type="checkbox"/> ビオトープに関する活動を広げるきっかけになっているかを確認し、不十分な場合には改善している。	137	
⇒		

とくしまビオトープ・プラン チェックリスト		学校でビオトープを保全、復元、創出する場合	1
<b>■準備・構想段階</b>		記載 ページ	評価
<input type="checkbox"/> 学校ビオトープについての勉強会を開き、学校ビオトープについての理解を深めた。		140	
この欄に具体的内容や結果を記入してください。 ⇒			
<input type="checkbox"/> 他校の学校ビオトープを視察し、学校ビオトープのイメージを明確にした。		140	
⇒			
<b>■計画段階</b>			
<input type="checkbox"/> 学校周辺の自然や生物について民間団体や研究者から教えてもらった。		141	
⇒			
<input type="checkbox"/> 現地調査によって、地域の自然について調べた。		141	
⇒			
<input type="checkbox"/> 資料によって、今いる生物と昔いた生物を調べた。		141	
⇒			
<input type="checkbox"/> 古い地図などから、昔の地域の環境を調べた。		141	
⇒			
<input type="checkbox"/> 子どもたちが立ち寄りやすい位置に計画した。		142	
⇒			
<input type="checkbox"/> 地域住民などと交流ができる場所に計画した。		142	
⇒			
<input type="checkbox"/> 学校周辺のビオトープとつながりのもてる位置に計画した。		142	
⇒			
<input type="checkbox"/> すでにあるビオトープを取り込んだ配置を計画した。		142	
⇒			
<input type="checkbox"/> 日当たりの良い場所を中心に計画した。		142	
⇒			
<input type="checkbox"/> 広い面積を確保できるように計画した。		142	
⇒			
<input type="checkbox"/> 学校ビオトープはビオトープネットワークの一部として、地域の生物多様性保全の一端を担っていることを子どもたちに理解してもらった。		143	
⇒			

とくしまビオトープ・プラン チェックリスト		学校でビオトープを保全、復元、創出する場合	2
<input type="checkbox"/>	「広域ビオトープネットワーク方針図」、「ビオトープネットワーク方針図」を用いて、学校のビオトープネットワーク上の位置づけを把握した。	143	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	「ビオトープ現況図」を用いて、学校と周辺のビオトープタイプの概要を把握した。	143	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	縮尺1万分の1～5千分の1程度の地形図をビオトープタイプごとに色分けし、学校周辺のビオトープ分布を把握した。	143	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	学校ビオトープをビオトープネットワークの形成に役立てる方法を検討した。	143	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	学校周辺での公園、道路、河川、農地整備などの計画を把握し、これらの公共事業と、学校ビオトープとの連携について行政担当者に相談した。	143	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	学校ビオトープに復元・創出するビオトープを、周辺地域に分布するビオトープの中から選定した。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	短期、中期、長期の目標種を設定した。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	目標種を外から持ち込むことは極力避け、ネットワークにより、学校周辺のビオトープから生物がやってくるようにした。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	餌を与えるなどしなくても持続的に生息・生育できる種を目標とし、目標種が世代交代をくり返していけるように計画した。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	民間団体や地域の研究者などに相談して、目標種や目標環境の設定を行った。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	保護者や地域の人々が協力して取り組む体制を検討した。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	活用や維持管理の体制を検討した。	144	
	⇒		
<input type="checkbox"/>	授業での活用方法を検討した。	145	
	⇒		

■設計段階

<input type="checkbox"/> 観察などに人が使う場所と、生物の生息空間をある程度区分した。	145	
⇒		
<input type="checkbox"/> 水辺と林、林と草地、草地と水辺などが接し、移り変わっていく場所（環境推移帯：エコトーン）が確保できるようにビオトープを配置した。	145	
⇒		
<input type="checkbox"/> 地域に昔からあるビオトープについて詳しく調べ、これをモデルとして設計した。	146	
⇒		
<input type="checkbox"/> 生物を呼ぶための施設を設計した。	147	
⇒		

■施工段階

<input type="checkbox"/> 作業に、より多くの子どもたち、保護者、地域住民、地域の民間団体、学識経験者などに係わってもらった。	148	
⇒		
<input type="checkbox"/> 子どもたちや地域住民などの直接参加を充実し、業者のみによる作業は最小限とした。	148	
⇒		
<input type="checkbox"/> はじめから完成型に近づけずに、作り込みを最少限にした。	148	
⇒		
<input type="checkbox"/> 自然をモデルとし、整形的（人工的）にならないようにした。	148	
⇒		

■維持管理段階

<input type="checkbox"/> 子どもたちが中心となって維持管理を行っている。	149	
⇒		
<input type="checkbox"/> 草刈りなどを行う際に、生物の逃げ場を確保するなど、生物の生息を考えた管理を行っている。	149	
⇒		
<input type="checkbox"/> 移入種や地域本来の種ではない生物が放された場合に、早く取り除いている。	149	
⇒		

## ■事後評価（モニタリング）段階

<input type="checkbox"/> 目標種の生息・生育空間となっているかを確認し、不十分な場合には改善している。	151	
⇒		
<input type="checkbox"/> 地域のビオトープネットワークの一つとして機能しているか確認し、不十分な場合には改善している。	151	
⇒		
<input type="checkbox"/> 子どもたちが利活用、管理の主役になっているか確認し、不十分な場合には改善している。	151	
⇒		
<input type="checkbox"/> 保護者、地域住民、民間団体などが管理などに係わっているか確認し、不十分な場合には改善している。	151	
⇒		

## 参考 - 4 とくしまビオトープ・プラン検討委員会 委員名簿

本プランの策定にあたっては、「とくしまビオトープ・プラン検討委員会」を設置し、計画内容の検討を行った。以下に、委員名簿を示す。

### とくしまビオトープ・プラン検討委員会委員（敬省略）

委員長	鎌田 磨人	徳島大学工学部助教授
副委員長	米田 潤二	徳島県ウォーキング協会会長、 ボランティア事務所エンジョイプランニング代表
委員	大原 賢二	徳島県立博物館自然課課長
	上月 康則	徳島大学工学部助教授
	佐藤 陽一	徳島県立博物館自然課主任学芸員
	瀬尾 規子	江川エコフレンド会長
	曾良 寛武	（財）日本野鳥の会徳島県支部長
	田淵 桂子	徳島県建築士会女性部会長
	徳山 豊	徳島市川内北小学校長
	友滝 洋子	藍住町正法寺川を考える会
	吉田 一夫	市場町にトンボの里を作る会 会長

（委員の並びは五十音順）

また、本プランの改訂版策定にあたって、ご協力いただいた方を以下に示す。

### 改訂版協力者（敬省略）

	木下 覺	徳島県植物研究会会長
	小川 誠	徳島県立博物館自然課主任学芸員

---

## とくしまビオトープ・プラン 第2版

－ 自然との共生をめざして －

---

初版 平成 14 年 3 月

第 2 版 平成 15 年 3 月

企画・発行 徳島県 県民環境部環境局 自然共生室

〒 770-8570 徳島市万代町 1 丁目

TEL 088-621-2331 FAX 088-621-2845

編集 (財) 日本生態系協会

〒 171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20

R J プラザ 3 F

TEL 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974

---

知ろう 考えよう なくそう 部落差別